令和２年度　　学 校 総 合 評 価

１　今年度の重点課題に対する総合評価

今年度は、年度当初の２か月間の休業を考慮し、重点課題の設定を２項目として取り組んだ。各重点項目の目標についてはおおむね達成することができた。取組の概要と評価は下記のとおりである。

（1）　様々な活動に主体的に取り組むための指導・支援の在り方

生徒がキャリアパスポートの記入を通して自己の成長を実感できるように、なりたい自分や将来の夢について考えたり発表したりする機会を設定し、目標達成までの努力の過程や達成度を振り返るよう促した。「中学部パワーアップ週間」を設け、パワーアップシートになりたい自分に近づくための目標を書き、毎日チェックできるようにしたり１～２週間ごとに振り返りと目標の見直しを行ったりすることで、生徒の主体的な取組につながった。

指導・支援を進めるにあたっては、生徒の実態把握を十分に行い、教師間で共通理解を図る事が必要と考え、学部研究の機会を捉え生徒のキャリアパスポートを用いた情報交換や生徒の成長の確認、具体的な目標設定や振り返りができるための方策についての話合いを行い、指導・支援の充実を図ることができた。

（2）　キャリア教育の視点を取り入れた進路指導の在り方

進路指導の取組を保護者や外部の人に分かりやすく知らせるために、ホームページのこまめな更新と掲載内容の充実に努めた。就業体験激励会や就業体験報告会、「先輩に学ぶ」の様子や、就業体験の生徒の感想等の掲載、進路指導方針や学科毎・進路別の進路指導計画、卒業生進路先や就業体験協力事業所の更新を通して、本校の取組紹介に役立てた。また進路便りには進路関係行事や就業体験先からの課題や評価、キャリア教育・就労支援委員会での委員の助言等を掲載し、全校児童生徒への配布とホームページへの掲載により、情報発信を行った。

生徒が就業体験の目標や体験後の反省を記入した「キャリアパスポート」やそれを活用した生徒版進路便り、各クラスで行った進路学習の資料や「先輩に学ぶ」の講師の情報等を、ホールや高等部各教室前の廊下に掲示したことで、生徒、保護者、教職員が進路情報に触れる機会を増やすことができた。

２　次年度へ向けての課題と方策

（1）　生徒自身が目標設定や自己評価をしやすいようチェックリストを見直し、自己の成長を実感できるように定期的に振り返りや他者評価を行う。また、生徒の変容について教師間で情報共有し、指導や支援を継続する。

（2）　保護者同士の学びの場の設定や進路に関する情報の掲示場所の工夫を行う。保護者のニーズや興味関心に合った進路便りやホームページの作成に努める。また「キャリアパスポート」の作成と活用を重ね、進路学習・進路指導の充実につなげる。

３　学校アクションプラン

<table>
<tr><td colspan="4">令和２年度　　富山聴覚総合支援学校アクションプラン　（中学部）－１－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="3">学習活動</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="3">生徒が自分の力を生かして学び続けるための指導・支援の在り方</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="3">・今年度の中学部生徒は８名である。生徒は、自分の好きなこと、得意なこと、苦手なことについては理解しているが、自分の苦手なことに対して、どのような支援や方法があればうまくいくのか、自分の得意なところ、好きなことをさらに高めていくにはどのようにすればよいかなど、自分のことばで説明できるまでには至っていない。
・これまで、中学部では、キャリアスキルチェック表（※）を用いて自己評価と他者評価を行い、生徒自身による自己理解に努めてきた。また、学期初めや行事等の初めに目標を立て、学期末や行事終了後に振り返るという活動を行ってきた。しかし、生徒自身が、どのような人になりたいか、どのようにありたいかを明確に描けていなかったため、何に取り組むか、どう頑張ればよいかの目標を具体的に掲げることが難しく、達成感や満足感を得ることができにくかったと思われる。生徒が、なりたい自分や達成したい夢を描きながらそこに近づくための具体的な方策を考えて目標を設定し、目標達成までの努力を重ねることで自己の成長を実感し、さらなる意欲へとつなげていく必要がある。
（※）キャリア教育の４つの分野を３０項目にして５段階で評価するチェック表。平成２４年度に学部研究で作成。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="2">生徒が具体的な目標設定と振り返りの活動を行う回数　３回以上</td><td>教員が生徒のキャリアパスポートをもとに共通理解の場をもつ回数　６回以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="2">・生徒がキャリアパスポートの記入をとおして、なりたい自分に近づくための目標設定や振り返りの機会をもち、目標達成までの努力の課程や達成度を評価することで、自己の成長を実感できるようにする。</td><td>・生徒の実態把握を十分に行い、教師間で共通理解を図る。
・学部研究または学部会で、生徒のキャリアパスポートを用いて情報交換を行い、成長の具合を確認する。</td></tr>
<tr><td>達 成 度</td><td colspan="2">生徒が具体的な目標設定と振り返りの活動を行う回数　　３回　（１００%）</td><td>教員が生徒のキャリアパスポートをもとに共通理解の場をもつ回数　５回（８３%）</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="2">・なりたい自分や将来の夢について考えたり発表したりする機会をもった。それを踏まえた具体的な目標の設定と振り返りを行った。
・１１月より「中学部パワーアップ週間」を設定し、パワーアップシートになりたい自分に近づくための目標（１日に何をどのくらいするのか）を書き、毎日チェックできるようにした。１～２週間ごとに振り返りと目標の見直しを行った。</td><td>・学部研究（６月１回、７月１回、１１月１回、１２月１回）で、生徒のキャリアパスポートを用いて情報交換を行い、具体的な目標設定や振り返りができるための方策について話し合った。１月１回(予定)にも情報交換を行い、生徒の成長について確認する。</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>B</td><td colspan="2">①　A　②　B　※２項目の達成度から総合評価を判断
②について、キャリアパスポートをもとに教員間で話し合いを行った回数は学部研究における５回だったが、学部会の機会毎に生徒に関する情報交換を行った。</td></tr>
<tr><td>学校関係者の意見</td><td colspan="3">・具体的な目標を設定するための支援や生徒同士のコメントが、生徒のやる気につながった。
・目標設定や振り返り活動の回数だけでなく、生徒の変容に着目した取組を行ってほしい。
・自分を客観的に捉えるためにチェックリストの基準や表現を見直し、生徒が使いやすいものにする必要がある。</td></tr>
<tr><td>次年度へ向けての課　　題</td><td colspan="3">・生徒自身が目標設定や自己評価がしやすいよう、チェックリストを見直す。
・自己の成長を実感できるように、定期的に振り返りや他者評価を行う。
・生徒の変容について教師間で情報共有しながら、指導・支援を継続する。</td></tr>
</table>

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）

<table>
<tr><td colspan="4">令和２年度　　富山聴覚総合支援学校アクションプラン　（進路指導部・高等部）　- ２ -</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="3">進路支援</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="3">キャリア教育の視点を取り入れた進路指導の充実</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="3">・昨年度、富山大学の水内准教授を招き「ライフステージに応じたキャリア教育の実践」をテーマに研修会を開催した。過去、現在、未来をつなぐ視点、振り返り見通しをもてるようにすること、子供たちが自己選択、自己決定する機会を設けることなど、基本的な考え方を確認した。しかし、キャリア教育の視点を意識した授業実践や進路指導の取組は不十分であった。
・保護者・教職員対象の学校評価アンケート結果から、「進路に関する情報提供」「適切な進路指導」に課題が見られた。進路行事の企画運営、就業体験の事前事後学習、自立活動の時間やホームルーム活動での進路学習等進路に関する様々な活動を行ってきたが、校内外への周知が不十分だったためと思われる。本校の進路指導の取組を分かりやすく知らせるために、保護者や生徒、外部への情報発信を工夫する必要がある。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="2">進路指導に関する本校ホームページの更新
年５回以上</td><td>進路便り「together」（保護者向け）年２回発行
生徒版作成　年２回</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="3">・ホームページに本校の進路指導の取組について、進路先・就業体験先や進路行事、進路指導計画等を掲載し、本校保護者や外部の人に分かりやすく知らせる。
・保護者向け進路便りの発行時期、内容の見直しを行う。
・「先輩に学ぶ」「就業体験」を終えての感想、進路指導で行った内容等について、学年毎にまとめ、校内に掲示したり進路学習に活用したりする。（キャリアパスポートを使用）</td></tr>
<tr><td>達 成 度</td><td colspan="2">ホームページの更新８回　（１００%）</td><td>進路便り　２回（８月、１月(予定)）(１００%)
生徒版　　２回（７月　１２月）　　（１００%）</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="2">・進路指導方針の更新と、学科毎・進路別の進路指導計画、進路便り(１号)を作成し掲載した。（２回）
・就業体験激励会や就業体験報告会、「先輩に学ぶ」の様子や就業体験の生徒の感想等を掲載した。（４回）
・卒業生進路先や就業体験協力事業所を更新した。（２回）</td><td>・進路便り１号を８月に発行した。内容として、今年度の進路関係行事や就業体験先からの課題や評価、第１回キャリア教育・就労支援委員会での委員からの助言等を掲載した。
・「キャリアパスポート」として生徒が就業体験の目標や体験後の反省を書き、それを中心に生徒版進路便りを作成した。生徒、保護者、教職員等多くの人が通るホールの掲示板に進路指導の情報として掲示した。また、高等部各教室前の廊下に、各クラスで行った進路に向けての学習や「先輩に学ぶ」の講師の情報等を掲示した。</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>A</td><td colspan="2">進路指導に関するホームページの更新や進路便りの作成を実施した。
年度末、学校評価アンケートの進路に関する２項目において評価が上がった。</td></tr>
<tr><td>学校関係者の意見</td><td colspan="3">・ＨＰの更新や、ホール、廊下への情報掲示の取り組みは良かった。保護者の目に触れる機会を更に多くして欲しい。
・進路便りに掲載された「先輩に学ぶ」の内容が、保護者や外部関係者のニーズを捉えた具体的なものになるとよい。
・保護者が先輩保護者から学ぶ機会があるとよい。また、見通しがもてるように中学部段階から進路について考える機会をつくることが必要である。</td></tr>
<tr><td>次年度へ向けての課　　題</td><td colspan="3">・「キャリアパスポート」作成と活用を重ね、進路学習・進路指導の充実につなげる。
・保護者のニーズを把握し、興味をもってもらえる進路便りやホームページの作成を行う。
・保護者同士の学びの場の設定や、進路に関する情報の掲示場所の工夫を行う。</td></tr>
</table>

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）